

生成AIを活用したLychee Redmineでの プロジェクト管理について

2025年10月3日
株式会社アイネス
公共ソリューション本部
自治体ビジネス企画部
堀越 和真

目次

| | |
|----------------------------|----|
| 0. はじめに（会社紹介・自己紹介） | 0 |
| 1. Lychee Redmineを導入した背景 | 8 |
| 2. Lychee Redmineの利用目的と範囲 | 13 |
| 3. Lychee Redmineの活用事例 | 15 |
| 4. 生成AIを活用したLychee Redmine | 23 |
| 5. 課題と今後の予定 | 31 |

0. はじめに（会社紹介・自己紹介）

会社概要

資本金
15,000百万円

従業員数（連結）
1,247人

売上高（連結）
40,563百万円

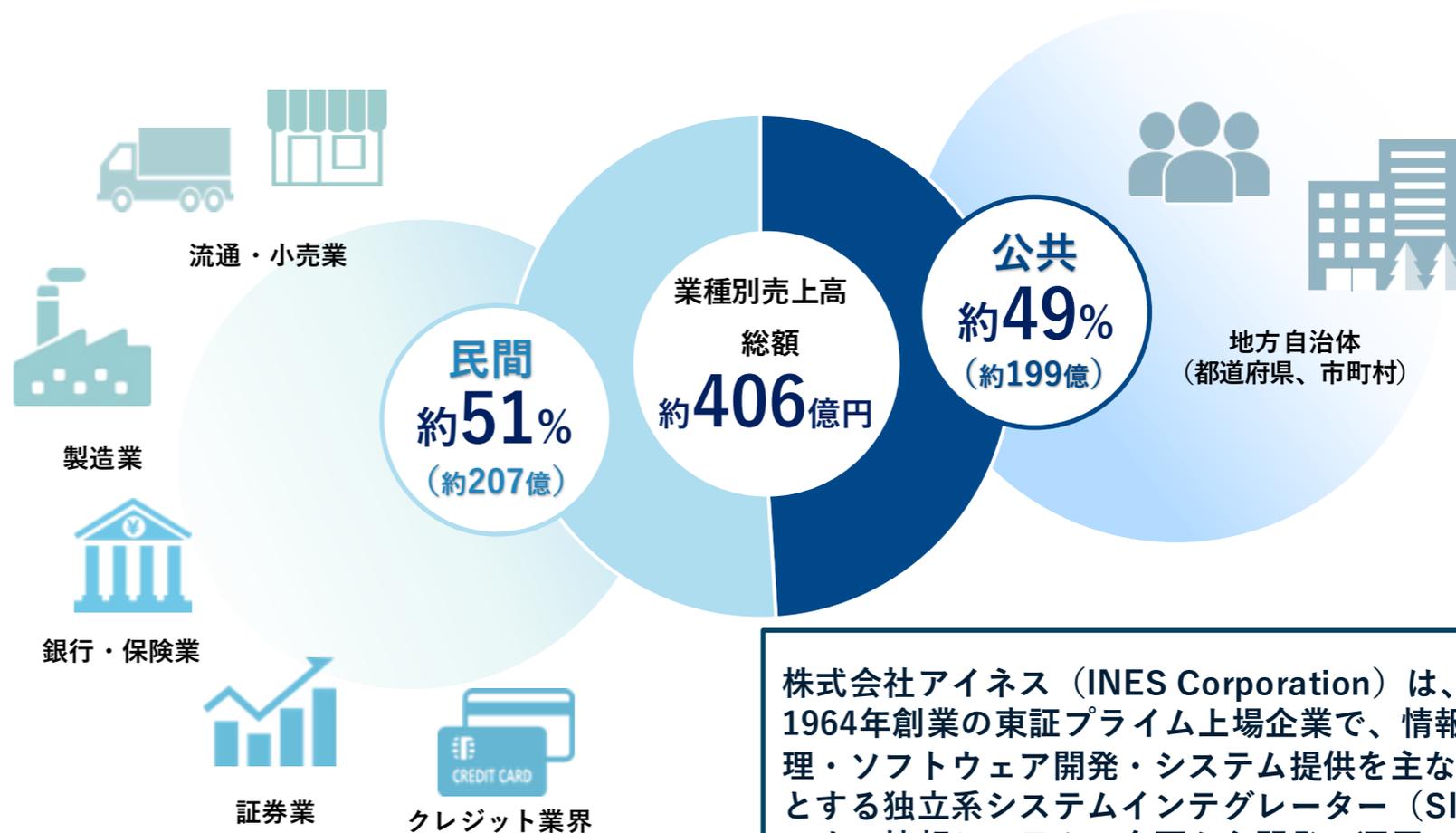
上場市場
東証プライム市場
証券コード 9742

※2025年3月31日現在

事業分野

【業種別連結売上高（構成比）】

※2025年3月期（2024年度）実績概要および顧客分類



株式会社アイネス（INES Corporation）は、1964年創業の東証プライム上場企業で、情報処理・ソフトウェア開発・システム提供を主な事業とする独立系システムインテグレーター（Sler）です。情報システムの企画から開発、運用、保守、評価まで一貫したサービスを提供し、特に地方自治体向けシステムや小売業向けシステムなどに強みを持っています。

0. 地方自治体向け行政パッケージシステム「WebRings」

弊社は地方自治体向けに行政パッケージシステム「WebRings」を開発、導入、保守運用を行っており、特に福祉システムに強みを持っています。

多様な福祉業務に柔軟に対応できる
ラインナップを数多く保有しています。

障害福祉



- 手帳管理システム
- 障害者福祉サービスシステム
- 自立支援医療システム
- 日常生活用具システム 等

高齢福祉



- 養護老人ホームシステム
- 老人福祉電話貸与システム
- 介護用品支給システム
- 敬老優待乗車証システム 等

ひとり親家庭福祉



- 児童扶養手当システム
- 資金貸付システム
- 施設管理システム
- ひとり親医療システム

児童福祉



- 児童手当システム
- 教育、保育給付等
- こども医療システム
- 児童施設措置システム

福祉システム ラインナップ 業界TOP

セキュリティ管理



- ログ/権限/パスワード管理
- マイナンバー連携
- LGWAN対応

緊急対策



- 災害時要援護者支援システム
- 給付金事業
- クーポン券事業
- 事務処理代行

0. 地方自治体向け取引先一覧

弊社システムは全国の地方自治体のうち、政令市、中核市、特別区をはじめとした大規模自治体へ多く採用いただいています。



0. 今後に向けた取り組み

弊社は業務パッケージシステム事業者から地域サービス提供事業者への取り組みを推進しています。
WebRingsで保有されているデータと地域ステークホルダーのデータを連携し住民サービス向上の取り組みを行っています。





講演者

堀越 和真氏

株式会社アイネス

公共ソリューション本部 / 自治体ビジネス企画部

プロジェクトマネージャー

地方自治体向けパッケージシステム（WebRings）導入のプロジェクトマネージャを政令市、中核市を中心に10年以上経験。現在は自治体システム標準化対応（※）のための全社PMOとしてプロジェクトを推進中。

100団体以上のプロジェクトを同時並行で管理するために、Lychee Redmineを導入して活用中。

※各自治体が運用する情報システムを、国が定める標準仕様書に準拠した共通のシステムに移行すること

1. Lychee Redmineを導入した背景

- 自治体システム標準化対応

標準化対応とは、日本全国の自治体が利用する業務情報システムを国が示す標準仕様に統一し、ガバメントクラウド上で運用していく取り組みです。2026年3月末を目標に、住民記録や税、福祉など、20の業務に関する基幹システムを標準準拠システムへ移行することが求められています。WebRingsにおいても、パッケージシステムの国仕様への標準化対応と、稼働団体への標準化への移行対応が必要となるため、弊社の最優先事項の1つとなっています。

自治体情報システム標準化 対象の20業務

| | | | |
|-------|---------|-------|-----------|
| 住民記録系 | 住民基本台帳 | 保健福祉系 | 児童手当 |
| | 戸籍の附票 | | 子ども・子育て支援 |
| | 印鑑登録 | | 児童扶養手当 |
| | 選挙人名簿管理 | | 生活保護 |
| | 戸籍 | | 障害者福祉 |
| | 就学 | | 健康管理 |
| 税系 | 固定資産税 | | 介護保険 |
| | 個人住民税 | | 国民健康保険 |
| | 法人住民税 | | 後期高齢者医療 |
| | 軽自動車税 | | 国民年金 |

- 標準化対応の移行は、約120団体のプロジェクトが並走するため、1つのプロジェクト不調が、全プロジェクト（全社）へ影響を与える可能性があります。不調の予兆を早期にとらえるためには、タイムリーにプロジェクト状況を、経営層までを含めた全関係者が把握できる必要がありました。
- 今までの新規導入プロジェクトは、全体進捗を社外のWebシステム、詳細タスクWBSをEXCELで管理し、担当→リーダー→PM・課長→部長→経営層とボトムアップで報告していましたが、この方法では月次報告に近くなるため、不調を経営層が認識した時には、ほぼ手遅れとなるという課題がありました。
- プロジェクト管理の効率化について、生成AIを活用しなければ120団体を同時に管理できないという考えもあり、「統合プロジェクト管理ツール」を導入することを検討し、選定の結果「Lychee Redmine」を導入することが決定しました。

- 既存のプロジェクト管理の仕組み
 - ・全体の進捗管理：社外のWebシステム
 - ・バグ、課題管理：自社開発システム
 - ・要員管理、コスト管理：財務システム
 - ・WBS、レビュー管理、変更管理（Excel or Googleスプレッドシート）

- 「統合プロジェクト管理ツール」の選定観点としては、大きく
 - ① 公共事業の導入プロジェクト実施に適している
 - ② 今後の「生成AIによる支援」にも連携していけると考えられるツールを探しました。

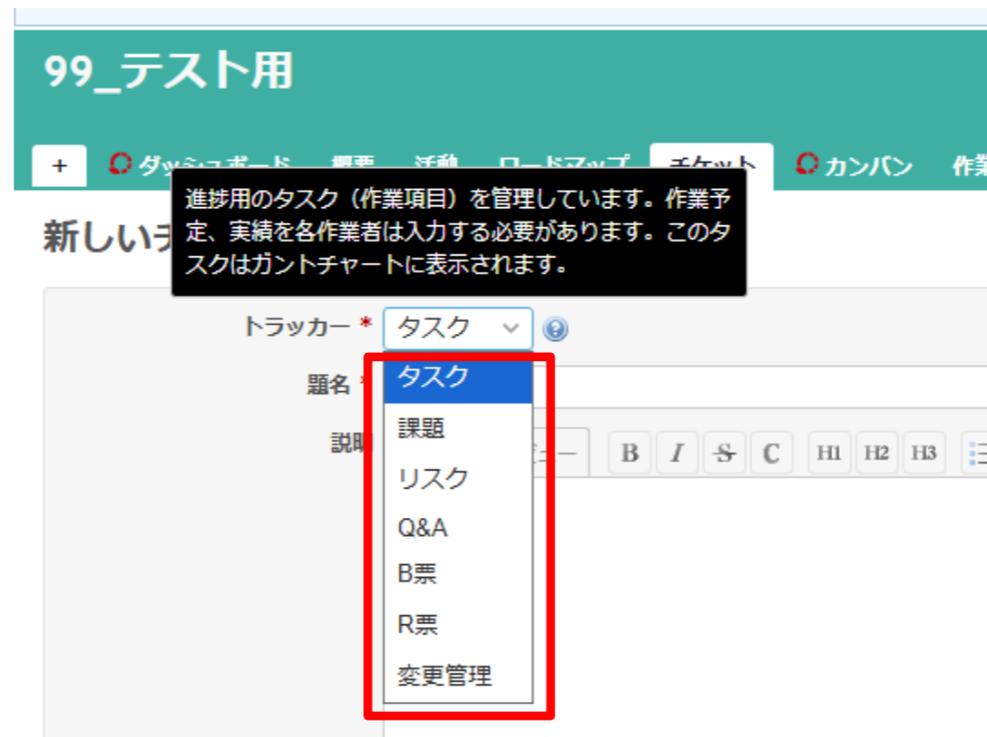
1. Lychee Redmineを導入した背景

(参考) 統合プロジェクト管理ツール製品の比較

| 評価項目 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | |
|-----------------------|--------------|--------|---------|-----------|-----------|------------|-----------|-------------|-------------|----------|----------|-----------------|------|-------|-------|-----------|-----------|-------|-------|-----------------------------|
| 検討ツール | スケジュールの作成と分類 | 担当者の割当 | 期間/工数設定 | ガントチャート表示 | スケジュールの修正 | 作業から実績入力可能 | 入力方法や工数把握 | スケジュールと作業情報 | 複数PJ管理と作業比較 | CSVデータ入力 | CSVデータ出力 | プロジェクトコミュニケーション | 課題管理 | Q&A管理 | リスク管理 | ダッシュボード比較 | 参照・編集範囲設定 | 入力の手間 | 費用(月) | 備考 |
| A製品 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | | |
| B製品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | | |
| C製品 | × | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | ○ | × | | |
| D製品 | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | | |
| E製品 | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | | |
| F製品 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | — | — | — | ○ | △ | ○ | | |
| Lychee Redmine | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — | — | — | ○ | ○ | ○ | ¥2100 | カスタマイズ無でそのまま利用できそうな機能になっている |

2. Lychee Redmineの利用目的と範囲

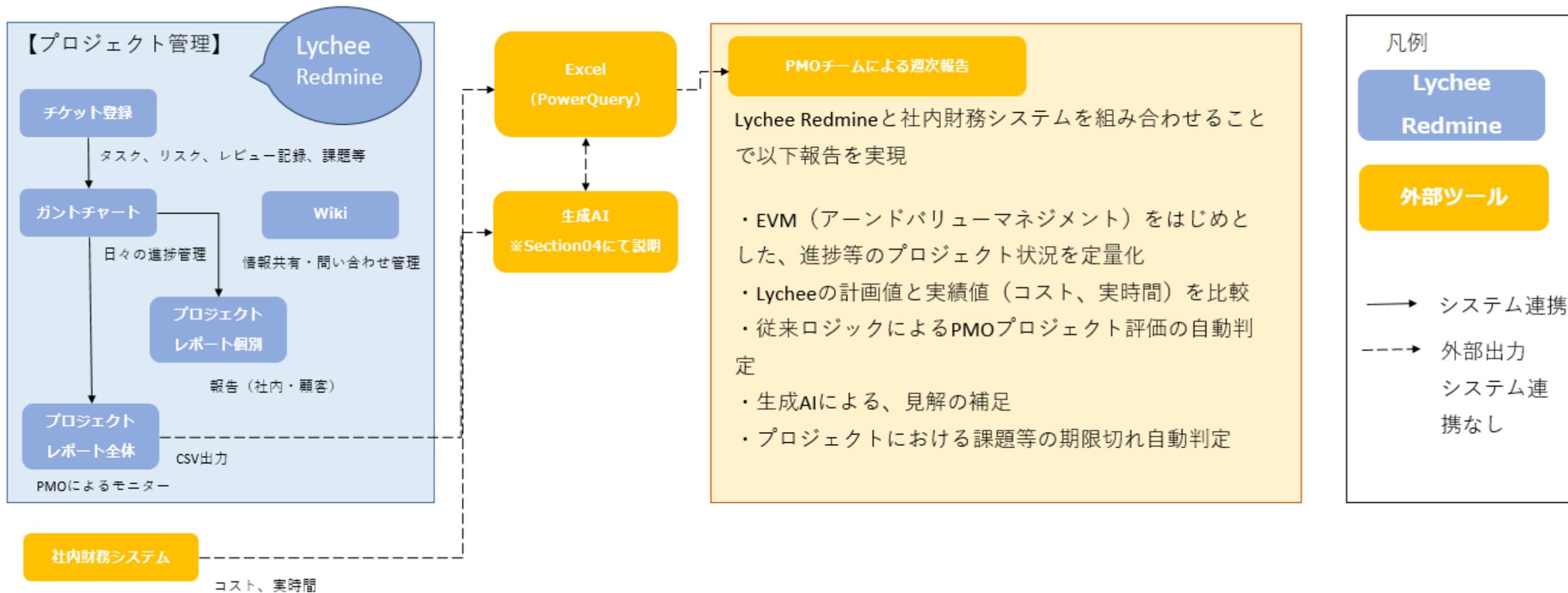
- 利用目的：プロジェクト管理に関するツールを「Lychee Redmine」に統一することで、プロジェクトによる進捗管理方法の独自性をなくし、一元化された情報を使用して生成AIを使用して分析等の効率化を目指す。
- 利用範囲：標準化対応プロジェクトで管理する情報は、原則すべて「Lychee Redmine」に集約する（タスク、課題管理、バグ票、リスク、Q&A、レビュー記録、ナレッジ、EVMなど）。



3. Lychee Redmineの活用事例

【活用事例概要】

従来1か月を要していたPMからの情報収集と報告書作成を、Lychee Redmineと各種ツールの連携で効率化しました。作業時間を1日に短縮し、EVMなどを用いた精度の高い週次報告を可能にしています。全体の流れは、以下のとおりとなります。



【Wiki】

プロジェクトのナレッジ共有として、Lychee RedmineのWikiを活用しています。
ホーム画面に情報共有専用のWikiを配置し、ナレッジを利用者全員で共有・更新可能な運用ルールとしています。
また、本プロジェクトにおけるPMO（Lychee管理者）への問い合わせを本Wikiのチケットで管理することで、問い合わせの集約・質問者以外へも気づきを与える仕組みを実現しています。

0_☆☆情報共有エリア☆☆

概要 活動 チケット ニュース 文書 **Wiki** 設定

Wiki

当Wikiで各種ナレッジを一元管理、情報共有していきます。皆様でナレッジを公開、追記し、内容を充実できるよう協力をお願いします。

1. Lychee Redmineの操作方法 **【必読】**
2. **【別紙5】WebRings福祉_標準化移行プロジェクト計画書_工程定義【20250723新版公開（標準化社内ドキュメント目次の標準化工程成果物は本ファイルに統合しました。）】**
3. 品質管理
4. ツール・教育 **【20250828更新】**
5. Wikiの作り方（テンプレート提案） **【20241217更新】**
6. 支社ナレッジ
7. 標準化推進検討会での共有事項 **【20250924更新】**

0_☆☆情報共有エリア☆☆

概要 活動 **チケット** ニュース 文書 Wiki 設定

チケット

新しいチケット ...

フィルタ

ステータス 未完了

オプション

適用 クリア カスタムクエリを保存

| # | トラッカー | ステータス | 優先度 | 題名 | 担当者 | 更新日 |
|--------|-------|-------|--------|-------------------------------|---------------|------------------|
| 204148 | Q&A | 未着手 | 2 (通常) | [REDACTED] | Admin Redmine | 2025/10/01 15:38 |
| 134958 | Q&A | 未着手 | 1 (低め) | 【Q&A起票ルール】 ※管理チーム作成 消さないでください | Admin Redmine | 2024/08/30 11:37 |

3. Lychee Redmineの活用事例

【1. チケット登録】

プロジェクト管理におけるすべての行動をLychee Redmineのチケットに登録
 タスク、課題、リスク、Q&A、バグ(B票)、レビュー(R票)、変更管理を全てチケットで一元管理
 各トラッカーを用途に沿った項目を定義し、プロジェクトメンバーがチケットを登録するルールで運用

トラッカーの説明

タスク
 進捗用のタスク（作業項目）を管理しています。作業予定、実績を各作業者は入力する必要があります。このタスクはガントチャートに表示されます。

課題
 プロジェクトで発生する課題をチケット管理します。作業実績の入力は不要ですが、期日、ステータスを明確にして管理する必要があります。

リスク
 プロジェクトで発生しうるリスク、発生したリスクを管理するチケットです。プロジェクトとしてのリスクの対応方法を確認しておきましょう。

Q&A
 プロジェクトの様々な局面で発生した内部、外部のQ&Aを管理します。特にお客様からのQ&Aは、期日を明確にして、回答する必要があります。

B票
 当プロジェクトのテスト工程で発生したバグ（不良）をB票としてチケット管理します。分析コードを元に、不良分析をODC分析という形で実施します。

R票
 対象の成果物に対してのレビュー指摘票（R票）をチケット登録する。

変更管理
 プロジェクトで発生した変更管理を管理するチケットです。管理対象は、スコープ定義・開発規模・スケジュール・体制です。プロジェクトとしての変更管理の対応方法を確認しておきましょう。

トラッカー * タスク

プライベート 工数を日数で表示する

题名 *

説明

ステータス * 未着手

優先度 * 2 (通常)

担当者 * 自分に割り当て

対象バージョン *

親チケット

開始日 * 2025/10/01

期日 * 年 / 月 / 日

実開始日 年 / 月 / 日

実終了日 年 / 月 / 日

ブロッキング

予定工数 時間

進捗率 0 %

進捗実績数 数値を記入。以下総数に...

進捗総数 数値を記入。たとえば、...

任意1 顧客別任意管理項目

任意2 顧客別任意管理項目

任意3 顧客別任意管理項目

管理番号 B票であれば、開発起因等で起票したB-TrackerIIIのURL。別で管理してい...

新タスクID 「新タスクID」は、2025年7月から新たに見直した「【別紙5】WebRings...

タスクID * 「タスクID」は、「【別紙5】WebRings福祉_標準化移行プロジェクト計画...

承認者

製番

【2. ガントチャート】

各プロジェクトの日々の進捗管理にガントチャート機能を活用しています。チケット、ガントチャートにそれぞれ特化したカスタムクエリを予め作成し、標準カスタムクエリとして全プロジェクトで活用しています。

99_テスト用
検索:

+ ダッシュボード 概要 活動 ロードマップ チケット **カンバン** 作業時間 **ガントチャート5 [β]** **ガントチャート** ニュース 文書 Wiki ファイル

ガントチャート: G_標準ガントチャート (社内タスク含む) 編集 削除 | PDF | ベースライン保存 | 全画面モード

→ フィルタ

→ オプション

→ 表示する項目

→ ソート条件

21 ヶ月分 10月 2025 適用 クリア 保存 日別(大) / 日別(小) / 週別 / 月別(大) / 月別(小)

新しいチケット
チケット連続追加
Undo
Redo
シミュレーション
パラレルビュー
工数見える化
更新

| 題名 | タスクID ▲ | 新タスクID ▲ | 業務区分 | 担当者 | 開始日 | 期日 | 予定工数 |
|--------------------------------------|---------|----------|----------|-----|------------|------------|------|
| 000_プロジェクト準備 | | | | | 2024/04/01 | | |
| 有 #15299: プロジェクト計画 | 21 | | プロジェク... | | 2024/04/01 | 2024/07/29 | |
| ▼ #15303: プロジェクト計画書 | 021-1 | | プロジェク... | | 2024/04/01 | 2024/07/29 | |
| [-] #15304: プロジェクト計画書作成 (顧客向け) テスト更新 | 021-1-1 | | プロジェク... | | 2024/04/01 | 2024/04/03 | 20 |
| 熊 #117284: プロジェクト計画書 (お試し | 021-1-1 | | プロジェク... | | 2024/07/12 | 2024/07/19 | 100 |
| リ #15305: プロジェクト計画書作成 (社内向け) | 021-1-2 | | プロジェク... | | 2024/07/22 | 2024/07/29 | 300 |
| リ #15306: 全体スケジュール、WBS作成 | 021-1-3 | | プロジェク... | | 2024/07/12 | 2024/07/19 | 20 |
| [-] #15307: 品証レビュー | 021-1-4 | | プロジェク... | | 2024/07/12 | 2024/07/19 | 410 |
| [-] #15308: 品管レビュー (フェーズゲート) | 021-1-5 | | プロジェク... | | 2024/05/17 | 2024/06/25 | 60 |
| リ #15309: プロジェクト計画書承認 (顧客) | 021-1-6 | | プロジェク... | | 2024/05/27 | 2024/06/28 | 200 |
| [-] #15310: プロジェクト計画書承認 (社内) | 021-1-7 | | プロジェク... | | 2024/06/25 | 2024/06/26 | 10 |
| 📄 #15311: データ移行フロー図 | 021-2 | | プロジェク... | | 2024/04/01 | 2024/04/19 | 10 |
| 📄 #15312: 全体テスト計画書 | 021-4 | | プロジェク... | | 2024/04/01 | 2024/04/19 | 10 |

【3. プロジェクトレポート（個別）】

プロジェクト単位の報告に活用しています。共通レポートに社内報告用のテンプレートと、顧客報告用のテンプレートを予め作成し、プロジェクト単位の報告で活用しています。

社内報告用は、主にバーンダウンチャートや指標、EVM等を表示させています。

The screenshot shows the Lychee Redmine interface for a project named '99_テスト用'. The 'レポート' (Report) menu item is highlighted with a red box. The main content area is divided into two columns: 'プロジェクト基本情報' (Project Basic Information) and '総評' (Summary).

プロジェクト基本情報

| | |
|----------|---------|
| プロジェクト名 | 99_テスト用 |
| 顧客名 | テスト |
| 報告部署 | テスト |
| 報告者 (PM) | テスト |
| 契約締結時期 | テスト |
| 本稼働日 | テスト |

プロジェクト概要

| | |
|-----------------|-------|
| 売上予定 (導入) ※千円単位 | 999 |
| 原価予定 (導入) ※千円単位 | 999 |
| 原価率 | % |
| 原価予定工数 (人月) | 999 |
| 原価予定工数 (時間) | 99999 |

総評

(2024/09/31時点)
更新箇所 (または更新でなくとも重要度の高い箇所) は朱書き、その中でも遅延しているものは下線付きとしている。

【概要】

[Redacted]

【詳細】

<プロジェクト準備>
・021-4 全体テスト計画書の出荷予定が8月30日であったが出荷されていない。そのため遅延している。テスト工程は11月からなのでクリティカルではないがなるべく後ろ倒しにはしたくないため早めに提供してほしい。

<基本設計：環境設計>

[Redacted]

<基本設計：運用設計>

[Redacted]

<基本設計：業務設計>

[Redacted]

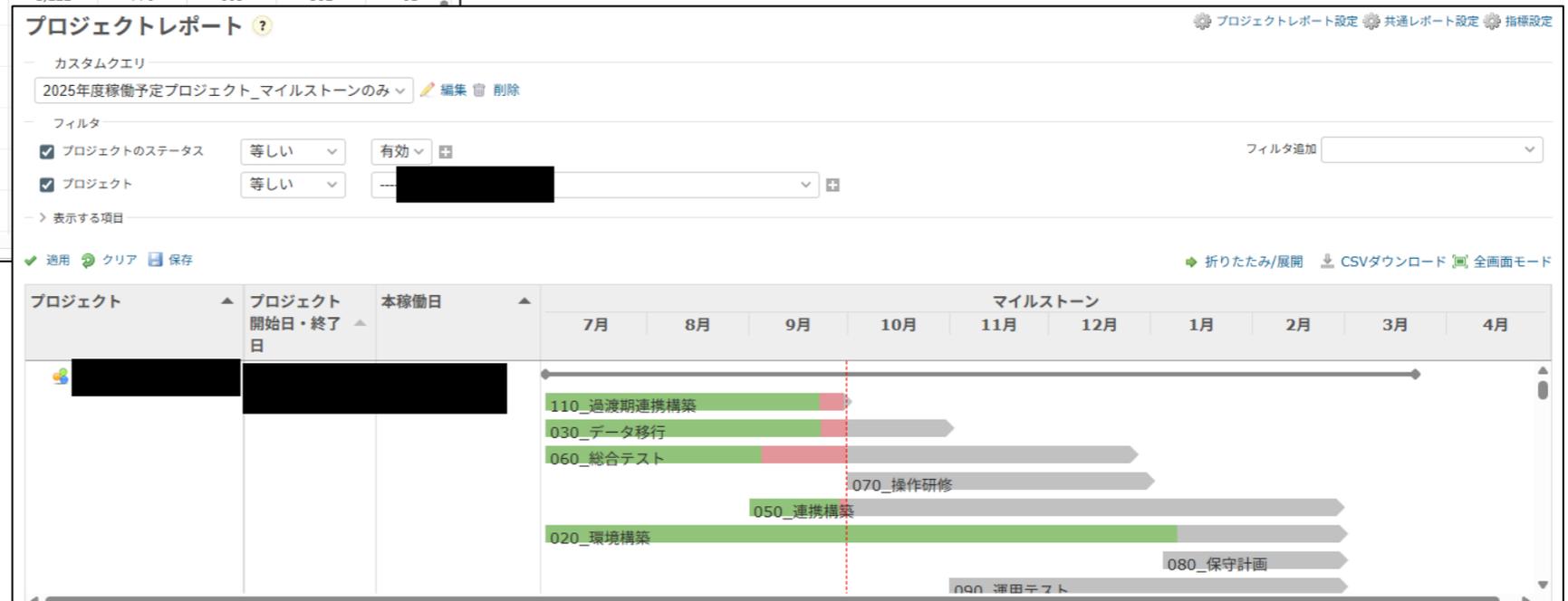
---共通レポート---

- 個別レポート (顧客報告用_Ver1.0)
- 個別レポート (顧客報告用)
- 個別レポート (社内用_Ver1.0)
- 個別レポート (社内用)

【4. プロジェクトレポート（全体）】

全プロジェクトの報告用途として活用しています。ホーム画面から選択する「プロジェクトレポート」をプロジェクトレポート（全体）としています。用途に沿ったカスタムクエリを予め作成し、CSVダウンロードし、外部ツールのインプットに使用しています。ユーザー指標を活用することで、課題の期限切れなどを自動検知する仕組みを構築しています。

| プロジェクト | BAC | PV | EV | SV | SPI | 課題総数 | 課題完了件数 | 課題残件数 | 課題期限切れ件数 | B票総数 | B票完了件数 | B票残件数 |
|-------------------|------------|------------|------------|------------|------|-------|--------|-------|----------|------|--------|-------|
| 1_ [redacted] | 662,354.29 | 313,865.44 | 229,713.87 | -84,151.57 | 0.73 | 4,918 | 3,696 | 1,222 | 776 | 663 | 582 | 81 |
| 00_ [redacted] | 39,136.8 | 38,877.3 | 29,153.68 | -9,723.62 | 0.75 | 10 | 5 | | | | | |
| 01_ [redacted] 支社 | 39,574.92 | 12,576.24 | 12,223.97 | -352.27 | 0.97 | 260 | 214 | | | | | |
| 02_ [redacted] 支社 | 42,312.36 | 16,275.53 | 11,154.1 | -5,121.43 | 0.68 | 147 | 75 | | | | | |
| 03_ [redacted] | 280,332.8 | 107,362.58 | 67,468.01 | -39,894.56 | 0.62 | 1,636 | 1,014 | | | | | |
| 04_ [redacted] 支社 | 173,500.2 | 100,753.21 | 75,562.68 | -25,190.52 | 0.75 | 2,618 | 2,246 | | | | | |



【5. PMOによる週次報告】

Lychee Redmineと社内財務システムのデータを活用し、評価の上、社内向け報告を行っています。
 支社単位での報告とプロジェクト単位での報告を4つアニメーションを切り替えて順に説明します。
 最後に、生成AIによる見解分析のサンプルを記載します。将来的にはWebダッシュボードでの見える化を目指しています。

| プロジェクト名 PM名 プロジェクト開始日・ 終了日 本稼働日 | 評価項目 (上段:今回、下段:前回) ※1 | | | | | | | | EVM項目 (上段:今回、下段:前回) | | | | | | | 工程進捗率、SV内訳 (上段:今回、下段:前回) | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|----------|------|----------|----------|-------|----------|------|---------------------|------------------|------------------|-------------|----------------|------------------|----------------|----------------------------|----------------------------------|----------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| | 進捗 | コスト | 品質管理 | 課題管理 | B票管理 | リスク管理 | 変更管理 | 委員管理 | コミュニケーション | BAC (時間) | PV (時間) | EV (時間) | SV (時間) | SPI | AC (時間) | CP I | プロジェクト準備 | 基本設計 | 環境構築 | データ移行 | 資源管理 / 資源移行 | 連携構築 | 総合テスト | 操作研修 | 保守計画 |
| A市 PM: ○○ ○○○ 2024/07/01 ~ 2027/01/31 本稼働日: 2026/03/30 | ○ (○) | ○ (○) | × | ○ (○) | ○ (○) | × | ○ (○) | | 9,777 (9,777) | 2,302 (2,123) | 2,337 (2,337) | 35 (214) | 1.02 (1.10) | 2,802 (2,802) | 0.83 (0.83) | 100% (100%) 0 (0) | 60% (60%) 25.38 (65.01) | 100% (100%) 0 (0) | 4% (4%) 0 (0) | 1% (1%) 0 (0) | 7% (7%) 0 (0) | 1% (1%) 0 (0) | 0% (0%) 0 (0) | 0% (0%) 0 (0) | 0% (0%) 0 (0) |

よび定期的なステークホルダーレビューの実施
 総合評価: プロジェクト規模の大きさは複数の要因で遅延リスクを増大させ、現在のSPI低下傾向と合わせて全体工程に与える影響が最も大きいリスクである

4. 生成AIを活用したLychee Redmine

◆生成AI活用で解消したい課題

課題：プロジェクト情報はLycheeRedmineに集約されたものの、その膨大なデータを有効活用しきれていない。

1. 迅速な状況報告ができない

全国100を超えるプロジェクトのレポートを手作業で作成すると、1か月もの時間が必要となります。レポートが完成した頃には進捗状況が変化しており、情報としての価値が失われていました。ChatGPTに代表されるチャット形式の一问一答形式の生成AIではプロンプトの入力と回答の転記時間も膨大になります。そのため、バッチ形式での一括処理が必要となる状況でした。

2. 多角的なデータ分析ができない

LycheeRedmineの既存のレポート機能では、多様なステークホルダーの分析ニーズに対応が困難でした。特に、以下のような横断的・定点的な分析の実現が急務となっています。

例：プロジェクト横断での状況判断

例：同一チケットに対する定点監視

例：遅延理由の妥当性点検

◆生成AIの活用

1. 生成AIによるレポート作成の自動化と高速化

課題：手作業によるレポート作成に1か月かかっていました。

解決策：生成AI（Claude）による評価・レビュープロセスを自動化しました。

事前に定めた評価軸に基づき、生成AIに全顧客分のレポート草案を自動で作成させています。

さらに、生成AI自身が一次レビューまで行うことで、人間の確認負荷を大幅に軽減させました。

人間の役割は、AIの評価に対する妥当性確認と最終調整のみとなり、レポート提供までの時間を劇的に短縮できました。

2. BigQuery × Gemini によるデータ分析の民主化

課題：専門知識が必要となるため、データ分析範囲が限定的となっていました。

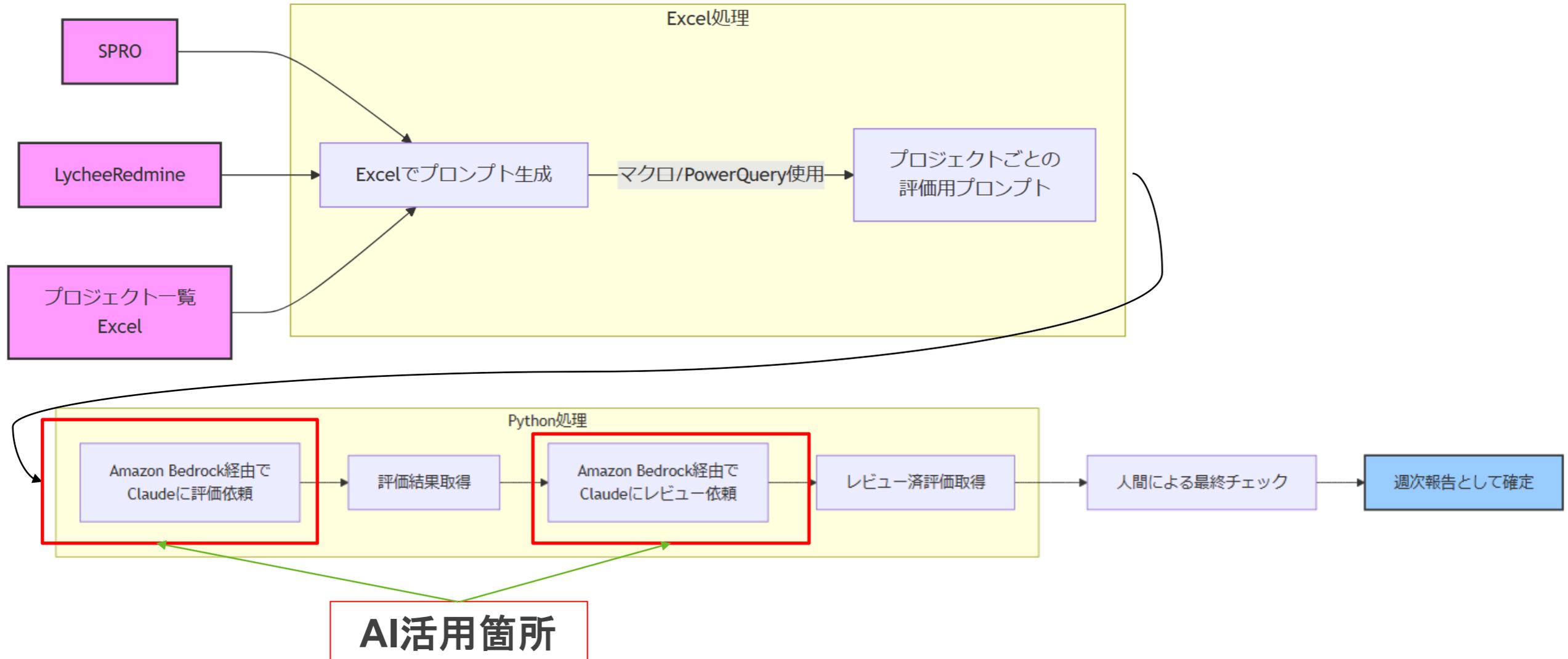
解決策：誰でも使えるデータ分析基盤を構築しました。

Lychee RedmineのプロジェクトデータをBigQuery（Google製品）にコピーし、分析基盤を構築しました。

Geminiと連携させることで、日本語の指示（プロンプト）でデータ分析が可能となりました。

これにより、エンジニアに限らず、全てのステークホルダーが自らの視点で迅速にデータを活用できる環境を実現できました。

処理構成図：1. 生成AIによるレポート作成の自動化と高速化



処理結果サンプル：1. 生成AIによるレポート作成の自動化と高速化

生成AIによる見解

※本コンテンツの作成にあたり、一部Claudeを利用しておりますが、内容につきましては十分に精査し、問題ないことを確認しております。

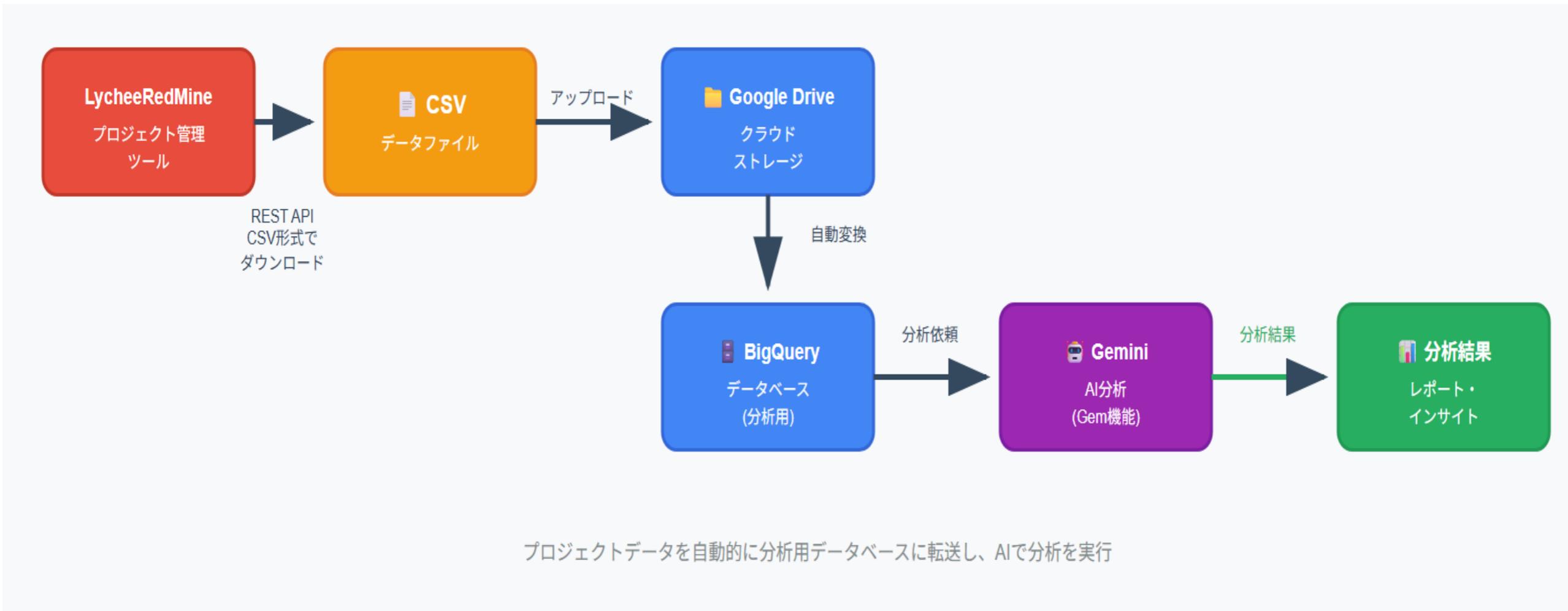
▼

■ 全社ごとの進捗：×
前回に引き続き進捗は遅延。スケジュール遅延(SV)は-37,552時間と前回比で悪化し、生産性(SPI)も0.83に低下した。全社的な遅延が深刻化しており、個々のプロジェクトへの対策が急務である。

■ 特に優先的に対処すべきプロジェクト：
プロジェクト名：[] (SPI=0.47)
総合評価：稼働日が約1年3ヶ月後に迫る中、SPIが0.47と極めて低く深刻な遅延状態である。半年以上前に期限切れとなった重要度Aの課題が放置されており、プロジェクトの前提が揺らいでいる。
推奨される対策：連携仕様に関する意思決定を最優先で行い、遅延回復計画を具体化すべきである。

■ 特に優先的に対処すべきプロジェクト：
プロジェクト名：[] (SPI=0.61)
総合評価：遅延が拡大する中、総予算(BAC)が前回から約82%も急増している。計画の再見積もりによる混乱と、それに伴う更なる遅延拡大が強く懸念される。
推奨される対策：BAC増加要因を詳細に分析し、計画の妥当性を再評価する。現実的なスケジュールを再設定し進捗管理を強化する。

処理構成図：2. BigQuery × Gemini によるデータ分析の民主化



処理結果サンプル：2. BigQuery × Gemini によるデータ分析の民主化

思考プロセスを表示 ▼

例：状況が悪化しているチケットの中から、遅延理由の説明と実際の進捗状況に矛盾があるチケットの一覧を表示させている。

承知いたしました。

プロジェクト「**XXXXXXXXXX**」について、ご指示の通り「評価が悪化」かつ「要確認」と判断したチケットに限定し、その理由を明記して再作成しました。

プロジェクト「**XXXXXXXXXX**」の要確認チケット一覧

| No | Title | 2025/09/03 SV | 2025/09/19 SV | 要確認と判断した理由 |
|-------|------------|------------------|------------------|--|
| 27444 | 連携テスト仕様書作成 | 0.00 | -5.98 | 進捗メモに「9/30までにリカバリ可能」と記載がありますが、SVは悪化しているため。 |
| 27467 | 総合テスト | -865.38 | -872.88 | 進捗メモに「品質対策PIのテスト仕様書は作成 |

◆生成AI導入による成果

1. レポート作成の大幅な効率化と質の向上

作業時間を劇的に短縮できた。従来約1か月間要していた作業が、約4～5時間で完了した。報告のリアルタイム性を実現でき、迅速な問題把握と解決サイクルを確立できました。

2. データ分析基盤の民主化

効果については、リリースから日が浅いため現在測定中となります。

5. 課題と今後の予定

- 課題：

- ・ 現在行っている評価レポートは、Lycheeからデータを出力して生成AIを活用して評価の上、Excelで「週次」でステークホルダーに送付しているが、評価タイミングをより短くしたいと考えています。特に、プロジェクト工程のうち、テスト工程は進捗と品質を密接に結びつけて評価する必要があります。
- ・ プロジェクトを同時並行に進めると、同じような質問や課題が発生する傾向にあるため、質問回答や課題横展開管理の効率化を行いたいと考えています。

- 今後の予定：

- ・ GoogleのLooker Studio等によるダッシュボードによる見える化対応を行う予定です。
- ・ GoogleのNotebookLMや、Agentspaceによる検証（POC）を行う予定です。

(参考) 今後の予定のイメージ

■■■■ PJ バグマップ

業務 ▼ ステータス ▼

- ・ フォントサイズの関係で、縦横スクロールが発生します。ご了承ください。
- ・ 数字が大きいエリアは色が濃く表示されます。

| 原因詳細 | 事象分類 / B票件数 | | | | | | | | 総計 |
|-----------------|-------------|----------|------------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | バッチ処理選択不良 | 画面動作停止 | ジョブパラメータ不備 | 処理停止、異常終了 | メッセージ不正 | データ更新不正 | 帳票様式不備 | データ移行誤り | |
| CFX実装誤り | | | | | | | 20 | | 37 |
| EUC不具合 | | | | 1 | | | | | 14 |
| その他 | | 1 | 1 | 12 | | 1 | 4 | 2 | 102 |
| リリース資源漏れ | | | | 2 | | | | | 6 |
| リリース資源誤り | | | 1 | 4 | | | | 1 | 6 |
| 不良でない (データ不備) | | 2 | | 5 | | | 1 | 4 | 28 |
| 不良でない (仕様通り) | 2 | | 7 | 6 | 2 | 4 | 10 | 21 | 196 |
| 不良でない (受入環境資源) | | | | 2 | | | | | 8 |
| 不良でない (導入側設定不備) | 2 | 1 | | 3 | | 2 | 4 | 1 | 32 |
| 再現せず | 1 | | | 4 | 1 | 1 | | | 16 |
| 出荷スクリプト誤り | | | | 1 | | | 1 | 1 | 10 |
| 初期出荷DB不良 | | 1 | 4 | 1 | 1 | | 2 | | 31 |
| 総計 | 6 | 8 | 27 | 59 | 8 | 12 | 60 | 48 | 733 |

Business × Happiness

“Be with you” アイネスは常にお客様、社会と共に。